



学校だより 6月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和3年5月31日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

「一心」をめざして

校長 寺園 淳

運動会当日、前日の降雨により会場の設営準備ができなかったため、早朝より職員が出勤してきました。手分けして準備を始めようというとき、ポツン、ポツンと額に当たるものが。あっという間に「さあっ」と音を立てて雨が降り始めました。私は準備を中断しようと皆に声をかけましたが、一人の職員が「ラインだけでも引いてしましましょう。」と返事をしてきました。校長として本校の職員に頼もしさを感じました。本校にとって春に実施する運動会は、学年・学級の仲間づくり、上級生としての自覚を育む大切な行事です。コロナ禍にある中、できる限りの感染症対策を施しながら実施いたしました。PTA 会長津ノ井様をはじめ、保護者の皆様、地域の皆様にはご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今年の運動会のスローガンは「一心」でした。子どもたちは団結式から始まり、本番に向けての学習で皆の心を一つにできました。その要となったのが赤組、白組それぞれの応援団長です。運動会を終えた感想を紹介します。

最初はみんなをまとめていけるか不安でしたが、みんなが自分から「今日、練習がありますか。」や「ここはどうしたらいいですか。」など聞いてくれて、自分のことを頼りにしてくれていることが分かり、不安が消えていきました。私は応援団長をして、みんなと協力して一つのことをやり遂げる力が付きました。

6年1組 永島 禪

ぼくは応援団長になったとき、すごくうれしかったです。運動会で白組が優勝できるように、毎日練習をがんばりました。当日、練習で大声を出しすぎて全然声が出なかったけれど、みんなががんばってくれたので、優勝することができました。ありがとうございました。

6年2組 津ノ井 和也

私は機会があるごとに、子どもたちに「石川魂」を意識させています。そこで運動会で見られた「石川魂」にある柱を体現した子どもの姿について自慢したいと思います。一つ目は「最後まで粘り強く頑張る子」です。徒競走の時、ゴール前で転倒する子が何人かいました。しかしどの子も素早く起き上がり、転倒の痛みをこらえて一生懸命にゴールを駆け抜けていきました。またリレーでは、バトンの引き継ぎに失敗しても最後まで全力で走り切っていました。誰もが心から声援を送りたくなる姿でした。二つ目は高学年が挑戦した長縄跳びの時に見られた姿です。子どもの中には、長縄に入るタイミングをとることが苦手な子もいます。その苦手な子に対して友達がタイミングを計り、背中を押して合図を送っていました。ここまではよくあることですが、私が感心したのはこの後の関わり方です。苦手な子に再び順番が回ってきたとき、その友達は「自分でいけるかな」と声をかけ、相手の気持ちを確かめたところです。「自分や友達の思いを大切に協働する子」が育ち始めていると感じさせてくれる素敵な場面でした。

全ての教育活動は、学校教育目標「石川魂」の具現化にあります。子どもたちが教師とともに学習に取り組む中で、様々な資質や能力が身についていくと考えます。私たち教員は子どもが体現した力を適確に評価し、さらに高めるよう、努めてまいります。今後とも保護者の皆様、地域の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。